

### 実践事例3 千葉市

公益財団法人千葉市国際交流協会

鈴木 恵美子（すずき えみこ）

（平成22年度地域日本語教育コーディネーター研修受講）

平成9年4月、財団法人千葉市国際交流協会入職。平成15年より平成22年度までボランティア斡旋（日本語学習支援）、日本語ボランティア講座などを担当。平成25年度より再び日本語学習支援事業を担当。

平成22年度地域日本語教育コーディネーター研修受講。

公益財団法人千葉市国際交流協会委嘱

地域日本語教育コーディネーター

萬浪 絵理（まんなみ えり）

1980年代より、研修生、社員、留学生、EPA介護看護人材等の日本語教育に携わる。平成24年度に海外産業人材育成協会にて文化庁委託生活者事業を担当した際、地域のニーズを拾い、課題解決と外国人の社会参加につなげる取組で成果があったことから、平成25年度はインターカルト日本語学校、平成26年度は千葉市国際交流協会の文化庁委託生活者事業にて、同様のコンセプトで取組を発展させている。学習支援ボランティア研修講師も担い、「行動を変える気づき」と「協働する楽しさ」の提供に努めている。

## 外国人住民の社会参加をすすめるための日本語教室へ

公益財団法人千葉市国際交流協会

鈴木恵美子

委嘱コーディネーター 萬浪 絵理

### 1 日本語教育事業実施の背景

#### (1) 千葉市の外国人住民について

区名	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	全市
外国人住民総数	5,171	3,091	2,895	2,509	1,069	5,890	20,625
外国人住民の割合	2.60%	1.70%	1.90%	1.70%	0.90%	4.00%	2.20%
国・地域別							
中国	1,971	980	1,271	587	362	4,271	9,442
韓国 朝鮮	1,524	427	443	649	298	433	3,774
フィリピン	708	338	281	609	119	239	2,294
ベトナム	167	119	77	50	29	257	699
タイ	113	69	53	145	51	33	464
ブラジル	41	255	33	23	13	19	384
米国	72	93	45	21	37	102	370
ネパール	83	140	61	45	9	11	349
台湾	100	37	59	39	41	38	314
ペルー	16	200	31	20	4	18	289
その他	376	433	541	321	106	469	2,246

(平成 26 年 6 月末現在)

国籍別では 1 位中国 9,442 人、2 位韓国・朝鮮 3,774 人、3 位フィリピン 2,294 人、4 位ベトナム 699 人、5 位タイ 464 人、6 位ブラジル 384 人、7 位米国 370 人、8 位ネパール 349 人、9 位台湾 314 人、10 位ペルー 289 人。この数年の特徴では、ベトナムはこの 1・2 年で急増しており、日本語学校への入学者増が一因と思われる。

区別の特徴は、中央区は特別永住などで韓国・朝鮮、また、日本語学校が集中しているため留学の割合が多い。花見川区は食品工場（隣接する八千代市も）に勤める南米系のブラジル・ペルー（定住者）が多い。稲毛区は、大学が多いため留学が多い。若葉区は国際結婚しているフィリピン、タイの日本人配偶者が多い。緑区は 6 区のうち一番外国人住民が少なく、市全体数の 5.2%、外国人住民の比率も 0.9%にとどまる。一方、美浜区は市全体数の 4 分の 1 以上にあたる 5,890 人、外国人住民の比率も 4.0%と大変多い。東京湾沿いにある市営・県営住宅に多く住む中国帰国者関係や IT 技術関係の中国が多くなっている。

以上の点から、千葉市内の外国人住民の特徴は「国もさまざま、在留資格もさまざま」。

(2) 施策の理念

(公財) 千葉市国際交流協会 多文化共生マスタープラン 平成 23 年度～平成 27 年度  
 地域社会を構成する市民を在住外国人、国際交流ボランティア、そして地域の一般市民としてとらえて、異なる文化を背景とする市民が対等な立場で自律して、地域社会で生活していくことを目的に、事業計画を策定。

(3) これまでの取組

「交流と支援、さまざまなニーズへの対応」

- ・ 1 対 1 によるマンツーマン日本語学習支援
- ・ ボランティア研修（入門、養成、実践講座）…日本語の教え方中心
- ・ ボランティア意見交換会

2 日本語教育事業の位置付け

(1) 事業の目標

	before	after	変化を起こす取組
支援者の傾向	学習者の抱え込み	外との関わりを奨励	支援者研修 ↓ 日本語教育の取組への参加・協働  プロジェクト会議や具体的な取組における協働を通じたネットワークづくり  ヒアリング、日本語クラスステップ2への外部参加者動員
支援者が考える役割	日本語を教える	発信や社会参加を応援する	
支援者が考える外国人の位置づけ	外国人は困っているから助ける	外国人は共に地域社会を創る仲間である	
支援者が考える学習目的	テキストの課を進める	中身のある言語活動を行う	
連携	日本語教室同士の連携や情報交換がない	協働により、教室同士に有益なつながりが生まれている	
まちの多文化接触場面	情報不足による課題がある	協働によって問題解決につながる連携が生まれている	

(2) 事業の主な取組

- ①. 平成 25 年度 日本語学習支援ボランティア研修
  - 「日本語の教え方」から「支援のスキル」へ（講師 萬浪絵理）

平成 26 年 1 月～3 月 日本語学習支援ボランティア実践講座(経験者向け)プログラム

回	講座のテーマ	キーワード
1	地域日本語教育の潮流と ボランティアの役割	多様性、学校型、地域型、意義
2	コミュニケーションスキル	受容・共感、傾聴、主体性、コーチング
3	学習者の発信の場づくり	社会参加、マズロー、発信、事例、対話
4	学習素材、地域のリソース	トピック中心、カリキュラム案、やさしい日本語
5	誤用の捉え方	コミュニケーションツール、正しさ、言語、文化
6	目標設定とふりかえりの方法	PDCA、自律学習、タイムライン
7	協働セミナー打ち合わせ	傾聴、動機づけ、気づき、発信
8	理念と活動内容	ニーズ、動機、目的、共有ゾーン
9	協働セミナー実施	気づき、楽しさ、出会い、一歩
10	今後に向けて	ネットワーク、協働、未来、自分軸

■研修内協働セミナー企画

テーマ：「外国の子育て、日本の子育て」

目的：①外国人による発信 ②地域による課題の認識 ③支援者による取組意義への理解

内容：第 1 部 外国人住民による日本での子育て経験や自国との違いに関するスピーチ

第 2 部 地域住民を含めた小グループで懇談と意見交換

成果：外国人スピーカー、支援者、一般参加者の各層から取組の意義に高い評価が示された。

→平成 26 年度生活者事業へ継続

②日本語学習支援

■ゼロレベル日本語レッスン

まったく日本語ができない人対象

週 2 回、5 週間 全 10 回

グループレッスンにより初期日本語を学ぶ

国際交流協会での 1 対 1 によるマンツーマン日本語学習支援、地域の日本語教室での学習の橋渡しとする。

■1 対 1 によるマンツーマン日本語学習支援

③平成 26 年度 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

地域日本語教育実践プログラム (B)

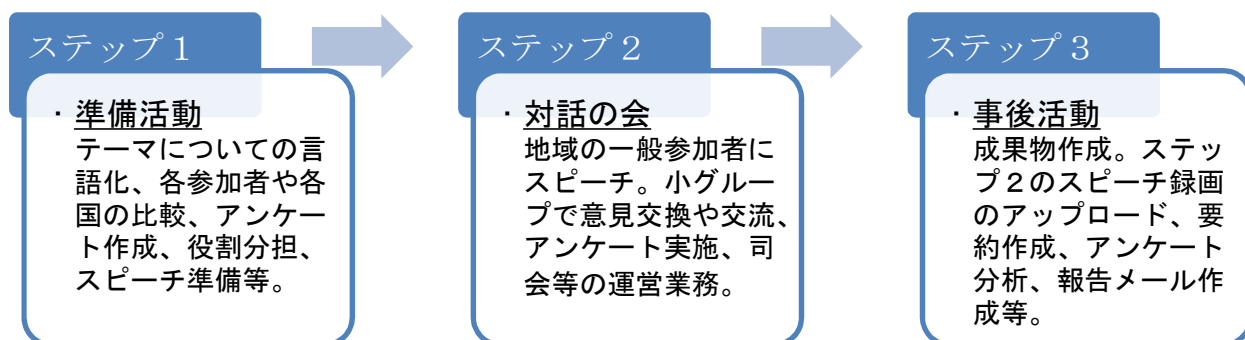
名称：千葉市および近隣地域における生活者としての外国人に対する日本語教育・  
 社会参加支援体制整備事業 (通称 「ちば多文化協働プロジェクト」)

■取組 1 テーマ別発信型日本語講座「テーマでつながる日本語クラス」

目的：日本語学習面－内容重視の活動の中での日本語学習

社会参加の面－学習者の発信による地域の多文化理解の促進と地域課題への取組

「テーマでつながる日本語クラス」流れ



\*各回のステップ 2 は「テーマでつながる外国と日本」として地域に広報

月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
テーマ	趣味	家族	子育て	介護	子育て	教育	自治会活動
ステップ	1   2   3	1   2   3	1   2   3	1   2   3	1   2   3	1   2   3	1   2   3
場所	協会	協会	日本語教室A	日本語教室B	日本語教室C	日本語教室D	協会

■取組 2 日本語学習支援ボランティア研修

学習支援未経験者向け 養成講座 全 10 回 平成 26 年 9 月開講

学習支援経験者向け 実践講座 全 5 回× 2 期 平成 26 年 5 月開講、11 月開講

平成 25 年度実践講座のコンセプトを継承して実施する。受講者に取組 1 への協働参加を順次呼びかけてネットワークを構築し、取組 1 の運営がボランティア主体で自立していくことを目指す。

■取組 3 成果普及シンポジウム 平成 27 年 2 月 8 日

3 日本語教育事業の実施体制とコーディネーターの役割

(1) 日本語教育事業を実施する上で、必要なリソース

新しい支援者研修・日本語学習支援体制への変換には「専門知識」「人脈」「経験」が必要。

協会スタッフでは不足

⇒ 外部コーディネーター

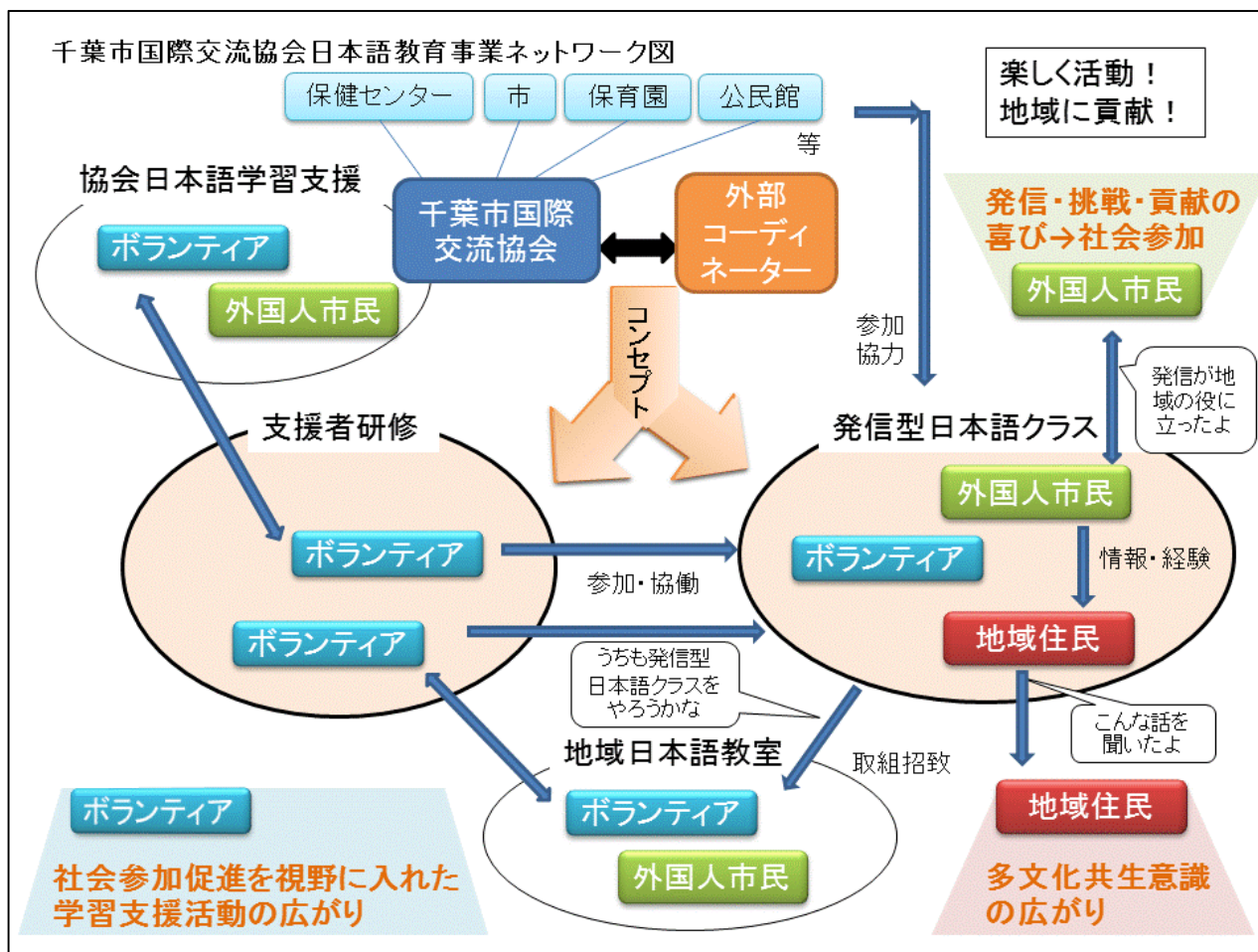
(2) 外部コーディネーターと内部コーディネーターの役割

外部コーディネーター

- 事業企画枠組み作成
- 広報(フェイスブック・プロジェクトメール・ちらし作成)
- 巻き込み(コンセプト作成、協働の呼びかけ、連携)
- 各取組企画・情報提供・講師との連絡・実施

内部コーディネーター(事業担当者)

- 事業実施事務(内部資料作成・講師や運営委員等依頼・謝礼等手配・報告書等作成)
- 協会媒体(HP・情報誌・FB・ボランティアへのメール)を通じた広報
- 外部機関・日本語教室関係者との連絡
- 事業参加者との連絡
- 資料作成補助・印刷・配布手配、場所・消耗品等手配
- 各取組補助(会場設営・写真撮影など)



### (3) 成果と課題

#### ① 成果

- ・ 支援者研修を通して学習支援ボランティアに生活者への学習支援に必要な事柄について理解が進んでおり、受講者の中には、日本語クラスのコンセプトに賛同し、運営で核となってくれる人材が生まれている。
- ・ チラシやフェイスブックでの広報は、単に参加者を募集する目的に留まらず、事業のコンセプトを広く周知するために役立っている。
- ・ 日本語教室同士の協働も行われ、横のつながりが広がりつつある。
- ・ 外部コーディネーターによって、新しいコンセプトの研修や、日本語教育事業の実施が可能となった。

#### ② 課題

- ・ 現在までに協働を承諾してくれた日本語教室は少数にとどまる。教室からの研修受講者がコンセプトに共感しても、教室に波及するのは時間を要する。
- ・ 新しいタイプの日本語クラスの趣旨を理解し参加しようとするボランティアはまだ少ない。
- ・ 外部コーディネーターにお願いできることは、さまざまな面から限られる。新しく事業を始める際には、これまでの事業・業務の見直しと外部コーディネーターとの分業を予め予定しておくことが肝要である。

#### ③ 最後に

千葉市の学習支援ボランティアは無償である。市や協会の施策の理念に沿った形でボランティア活動を続けてもらうためには、活動が楽しいこと、及び、各人のボランティア活動の目的と事業のコンセプトが一致していると感じられることが必要である。

#### ちば多文化協働プロジェクトとは。。。。

千葉市には外国出身者が2万人以上生活しています。  
日本での生活は、何がどのように便利なのでしょうか。  
また、何がどのように大変なのでしょうか。

発信する機会がありません…  
日本語で自己表現するのが難しい…  
どちらも、もったいないことです。



様々な文化背景を持つ人同士がお互いに話を聴いたり気づきを発言したりすることで、地域は誰にとっても住みやすい街に発展する可能性があります。

このプロジェクトでは「あう、きく、はなす、かんじる」を大切に、保育、教育、地域生活など様々なテーマで皆が発信できる場を創ります。  
また、千葉市国際交流協会の知見とつながりを活かし、取組を継続するためのゆるやかなネットワーク作りをおこないます。

WEB ページをご覧ください。皆様の参加を歓迎いたします。

<https://www.facebook.com/chibatabunka26>

お問い合わせ先

chibatabunka@gmail.com

ちば多文化協働プロジェクト 検索

